

令和7年度「第10回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の受賞者と功績等

氏名／団体名	功 績 等
兵庫県立ピッコロ劇団	平成6（1996）年に全国初の県立劇団として劇団員20名で発足。以来継続的に公演を重ねている。 演劇が人間形成にもたらす可能性が注目される今日、小中高校・大学等に出向き、演劇指導やコミュニケーション教育に力を注ぎ、想像力、集中力、観察力を形成し、演劇による次代を担う人材育成に貢献してきた。 阪神・淡路大震災の被災地はもちろん、東日本大震災の被災地でもこども向けの演劇体験兼ワークショップを実施、仙台に拠点を置く劇団をピッコロシアターに受け入れ、上演に全面協力し、コロナ禍での中断を余儀なくされたが、現在も継続している。 聴覚・視覚障害者への鑑賞サポートや在留外国人を対象とした先駆的なワークショップも開催し、全国的にも注目されている。 平成10(1998)年 紀伊國屋演劇賞団体賞受賞 令和4（2022）年 文化庁芸術祭（演劇部門）大賞受賞 令和6（2024）年 草の根国際功労賞受賞（ひょうご国際交流団体連絡協議会） 令和6（2024）年 バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰 内閣府特命担当大臣表彰優良賞受賞
神戸防災技術者の会	平成16（2004）年、震災復興事業に従事した土木や建築など技術系の神戸市職員とその退職者18人で、震災の記憶や教訓を継承するため設立した。その後、趣旨に賛同する事務、消防、保健師、設備等の職種も参加し、現在は130余名の会員で活動している。 学生、自治体職員等に震災時の対応や課題などを伝え、地域防災計画変更への助言、防災・減災意識の向上と災害時の対応のあり方や事前の備えに繋がるように震災遺構まち歩き等による防災学習を実施、その数は現在までに474団体、延べ948回、約6万人となっている。 東日本大震災発生直後は、仙台市の復興計画策定や名取市の罹災証明書発行等を支援、能登半島地震では珠洲市に先遣調査隊を2回派遣し、直近でも国からの要請である面的整備のため会員を派遣した。 令和2（2020）年 土木学会関西支部地域活動賞受賞

氏名／団体名	功 績 等
阪本 真由美（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）	昭和46（1971）年生まれ。 専門は、減災コミュニケーション、防災教育、地域防災、被災者支援。 国際協力機構（JICA）で国際協力に携わったのちに京都大学大学院博士後期課程修了。人と防災未来センター主任研究員、名古屋大学減災連携研究センター特任教授を経て現職。 令和3（2021）年には兵庫県災害時要援護者支援指針改定に係る検討委員に、令和5（2023）年からは兵庫県防災会議の委員、令和6（2024）年からはひょうご震災記念21世紀研究機構理事。ほかに、令和6（2024）年度の「能登半島地震を踏まえたひょうごの災害対策検討会」では座長を務めた。被災者一人ひとりに支援が届く官民連携によるきめ細やかな支援体制の構築に取り組んでいる。中央防災会議委員、中央防災会議南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ委員等を歴任。 著書に「阪神・淡路大震災から私たちは何を学んだか：被災者支援の30年と未来の防災」（慶応義塾大学出版会2024年）、「地域が主役の自治体災害対策：参加・協働・連携の減災マネジメント」（学芸出版社2025年）などがある。 令和6（2024）年 防災功労者防災担当大臣表彰受賞 令和7（2025）年 兵庫県立大学最優秀研究活動賞受賞